

事例⑥ 4つの視点『わくわく』5歳児クラス 11～12月
期のねらい「友だちと同じ目標に向かって取り組む中で、協力し合うことややり遂げる満足感を味わう。」
「ドキドキをワクワクに一子どもの思いを中心に、日々の保育から繋げる就学支援―」

園のくらし、子どもの姿

日々、安心できる生活環境の中で、子どもの豊かな学びや意欲を育むことを大切にしています。
初めてのことや、人前で何かをすることに緊張しやすい子どもが多いクラスですが、5歳児クラスになり、「ついに園の中のお兄さんお姉さんになった」という晴れがましい気持ちをもつようになってきました。年下の子どもに優しさや親しみの気持ちをもって話しかけたり、手をつないで一緒に遊んだり、お当番の仕事として給食時にはお茶やスプーンを配ってあげたりする姿も増えてきました。そのような関わりの中で「ありがとう」という言葉を掛けてもらう機会を通して、人の役に立つ嬉しさを感じ、自信をつけてきました。
園では、「子ども自ら考え、選択し、決める」機会を多く設けるようにしています。例えば製作では、色や形、大きさなど自分で自由に考え、決めて取り組んでいます。発表会や運動会では、セリフや振り付けなど自分たちでアイデアを出し合い協力して楽しながら進めています。友だちと一緒に生活していく中で友だちの良さに気づき、互いに認め合う姿も見られるようになってきました。

あそびのはじまり

小学校のイメージを子どもたちに尋ね、どんな期待や不安があるのか話し合いを行いました。今の園生活の延長に小学校生活があることを伝えられるよう、ドキドキがワクワクに変わっていくような活動を取り入れました。

あそびの広がり、あそびの深まり

《子どもの様子》

■見通しを持つ：今週の活動の流れをみんなで確認



■協力し合って生活する：おとうぼんのしごと



■自分たちのこれからをイメージする：小学校ってどんなところ？



グループに分かれて小学校のイメージを伝え合う

《保育者の ○願い・思い ◎配慮事項》

○1日または1週間の流れについて見通しをもって主体的に生活を進めることで、子どもたちの自信につなげていきたい。

○安心して小学校へ進学できるように、時間や曜日の感覚を育てていきたい。

◎「時計の針の形がこの形になったらこれをする」「水曜日はこれをするんだな。」ということがわかるよう、文字だけでなく絵カードも使い表示する。

○クラスや園のみんなが、気持ちよく過ごせるための環境を子どもたちと一緒に作ってきたい。

◎どのような当番活動をするのがよいか、子ども同士で話し合い、内容を決めることにより、主体的、意欲的な姿を引き出していく。

◎当番活動後には、係ごとどんなことをしたか、気付いたことなど発表する時間をとり、友だち同士で共感し合ったり、認め合ったりできるように援助する。

○小学校見学に向けて、子どもたちの小学校のイメージを確認する。

◎小学校で楽しいこと、心配なことを話し合う。12月に行う小学校見学の時にお兄さん、お姉さんに聞いてみたいことなど、見学がより楽しいものになるように進めていく。

学びの芽生え、10の姿につながるポイント

① 子どもの声を活動の主体に（9 言葉による伝え合い）

就学の主役は子どもたち。保育者や保護者も、子どもたちの就学に向け、様々な配慮や工夫を重ねていますが、まずは「子ども自身がどのように就学を捉えているか」という子どもの率直な思いや声を出発点として、こうした取り組みがなされています。子どもの声を聞くために、保育者の働きかけは不可欠です。

② 自分たちの生活を、自分たちで作り出す経験を（2 自立心）

「子ども自ら考え、選択し、決める」機会を多く設け、子どもの声が発する環境を日々心掛けていくからこそ、子どもたちは自らを意義ある存在として捉えることができ、意欲的に取り組もうとする姿が生まれてきます。保育者が子どもたちのどのような声も大切にすることで、子どもたちは自信を持ち、より一層考え、より工夫しようとしていきます。そして、共に取り組み、認め合うことで得られる達成感を味わっています。

《教材等の工夫》

■楽しい学校見学へ向けて！



・子どもたちの思いをまとめた結果、学校見学に向けて特に見てみたい場所は「運動場・プール・体育館」などだった。その結果を小学校へ子どもたちの思いと共に伝えた。
・小学校1年生との交流では、一緒におもちゃを作る予定。その中で「お友だちの作り方」「テストの点数」、何よりみんなが不安にしている「トイレの花子さん」についても聞いてみようと話している。

・事前に子どもたちの思いを聞くことで、小学校との交流を主体的に進めることができると期待している。子どもたちからも「小学校の見学、まだ～？」「早く行きたいな」という声が発している。子どもたちのドキドキがワクワクに変わるよう、意欲が高まる働きかけを工夫した。

小学校に聞いてみたいことを話し合う様子



入学に向けた子どもの思いを掲示して、保護者と共有

・保護者とも連携し、安心して就学が迎えられるよう子どもたちの思いをまとめ、掲示板に掲示した。就学まで4か月、子どもたちの思いを見た保護者からは、「やっぱりこんな不安を抱えているのですね」「家でも話を聞いてみます」など様々な声を頂いた。12月に開催のクラス懇談会時には、「入学に向けた子どもの思い」をテーマに懇談を進めていきたい。

保育者の気づき、その後の子どもの育ち

自分の気持ちを言葉で伝え合う活動を通して、子ども同士のつながりがさらに深まったように感じました。入学に向けて、子どもの思いを共感し合うことでドキドキがワクワクに変わるように、小学校に子どものドキドキを伝え、交流のねらいを共有したところ、ワクワクに変わっていく子どもたちの表情が多く見られました。

小学校教育との円滑な接続

小学校では、子どもたちは、節目ごとにキャリアパスポートを書いて、自分の生活を振り返ったり、これからの生活に見通しをもったりします。5歳児なりに小学校を見通しながら、園生活を振り返って、卒園・入学に自信をもてるように、また期待感ももてるように配慮をしていきます。

本事例とつながりが深い「10の姿」

2 自立心

9 言葉による伝え合い

小学校教育活動との関連

特別活動
学級活動（3）等